

# L'aile d'Howl



【ライル・ドウル:ホウルの翼(仏語)】

February 2016

## ☆祝快拳☆花巻北高男子ハンドボール部、 東北の頂点を極め、いざ全国選抜へ!!



花巻でハンドボールに関わる人間として、これほど嬉しいニュースは他にないでしょう。年明けの1月7日から花巻市総合体育館にて開催された全国高校選抜大会岩手県予選において、県高校新人戦に続き不来方高校を延長戦で下し、見事岩手県第一代表の座を獲得した花巻北高。まさに27年ぶりの優勝を飾った劇的な新人戦の結果が、単なるまぐれではなく実力で勝ち取ったものだったことを証明する素晴らしい結果を残しました。そして、第39回東北高校ハンドボール選抜大会(全国選抜大会東北予選会)は、同じく地元・花巻市総合体育館にて2月4日から行われ、花巻北高は多くの応援に支えられながら全国大会への切符をかけた戦いに臨みました。

初出場となる今大会、男子2組に入った花巻北高は、秋田県代表・湯沢高に10点差、続く山形中央高との試合も17点差で勝利し、初日のうちに予選1位通過を決め、同時に東北代表の4つの枠への入賞が確定し、見事全国選抜大会への出場権をゲットしました。しかし、ここで満足して終わる花巻北高ではありませんでした。最終日に迎えた第1・第2代表決定戦では、宮城県代表・聖和学園との対戦。序盤は一進一退の攻防となり、さすが東北の強豪との試合を感じさせる流れでしたが、前半途中から徐々に点差が開き始め、花巻北高は前半を6点リードして折り返します。続く後半も、石亀貴雅選手(花巻クラブジュ

ニア→花巻中)が中央を固める堅いDFで相手の攻撃を封じ、守って速攻の展開で得点を重ねていきます。OFでも、ポストに入る石亀選手が体を張って得た7MTの機会を、キャプテン鳴海僚選手が確実に決め、気がつけば10点差がついていました。そして、ついに迎えた栄光の瞬間。ハンドボール王国いわての存在感を十二分に発揮し、その第一代表として堂々の優勝を果たしました。会場に集まった多くの応援団、そして花巻北高ハンドボール部のOB、OG達は歓喜の声を挙げ、古豪復活、いや、これからまた新たに作られるであろう花巻北高ハンドボールの歴史のスタートに大きな拍手を送りました。



時を同じくして、岩手県勢では男子第二代表の不来方高校が、東北最後の出場枠獲得を目指して奮闘し、湯沢高と一進一退の試合展開を見せていましたが、試合ラスト3分ですべて逆転! 25-23で勝利を決め、花巻北高とともに全国選抜大会への切符を手に入れました。また、女子では、予選を1位通過した不来方高校が最終日の第1・第2代表決定戦に臨みますが、福島県代表・郡山女子大附属高校に惜しくも敗れ、東北第二代表として全国選抜大会へ出場することが決まりました。同じく、岩手県第二代表として今大会に臨んだ盛岡白百合高は、第2代表トーナメント決勝で秋田県代表・大曲農業高に逆転勝利を許し、残念ながら全国選抜大会への出場はなりません。



この大会の結果、男子は花巻北高、不来方高校、聖和学園、帝京安積高(福島県)の4校が、女子は郡山女子大附属、不来方高校、聖和学園、そして大曲農業が、東北代表として、3月24日～29日まで兵庫県にて開催される第39回全国高校選抜大会へ出場することになります。いずれの高校も、東北代表として悔いのない試合をしてきてほしいと思います。

昨年の全国中学校大会をはじめ、過去に数々の全国大会を開催し、28時間耐久ハンドボールなどのイベントなどを通じて、岩手県花巻市は多くのハンドボール関係者に知られる存在となっています。そして今回、花巻市の高校がついに全国高校選抜大会の歴史にその名を刻みます。さあ、全国大会で「黒橋魂」見せてこい！ガンバレ、花巻北高ハンドボール部！ その活躍を大いに期待しています☆

## 女子・花巻中が大崎カップ優勝！その勢いで春中へ

日程の関係上、1月31日、そして2月11日に分けて開催された今年度の大崎カップ中学校大会。昨秋に行われた新人戦からの成長ぶりを発揮するため、中学生ハンドボーラーが冬の陣に臨みました。男子の部は、夏の全国中学校大会準優勝からの勢いそのままに、矢巾中が順当に勝ち進みます。黒石野中、矢巾北中、そして上田中がその後を追いかける形になりました。女子の部では、県新人戦を制して春の全国中学生大会の出場を決めている花巻中が一步リード。決勝では松園中との顔合わせとなりました。



2月11日、昨年12月に開催されたJOCジュニアオリンピックカップに出場した岩手県選抜チームによる報告会が開かれ、特に男子は、優勝した愛知県に準決勝で一步及ばず、惜しくも3位になった戦いぶりを報告しました。この刺激を受けて、その後行われた男女決勝戦。女子決勝では、前半全くエンジンがかからず、5-5という非常にロースコアな試合展開となりましたが、後半ようやく普段のペースを取り戻した花巻中が一気に突き放し、終わってみれば22-11というダブルスコアで優勝の栄冠を勝ち取りました。矢巾中と黒石野中の対戦となった男子決勝では、前半こそ2点差の接戦となりましたが、後半突き放した矢巾中が見事優勝。男女ともに、県新人戦優勝チームが全国大会出場に弾みをつける結果を残しました。



なお、女子・花巻中の阿部史歩キャプテンが谷口賞(最優秀選手賞)、同じく平賀未来選手、土佐春乃選手、藤原ひなた選手(いずれも花巻クラブジュニアOG)が優秀選手賞を受賞しました。男子では、矢巾中を率いた海老子川隼人選手が谷口賞に選出されました。

上記の花巻北高と同じく、花巻中の名前が全国大会に登場します。矢巾中とともに、岩手県代表として堂々とした戦いぶりを見せて欲しいと思います。健闘を大いに期待したいと思います。

## 訃報・小友正人先生(前花巻市ハンドボール協会会長)ご逝去



東北ハンドボール協会会長兼岩手県ハンドボール協会会長(前花巻市ハンドボール協会会長)の小友正人先生(享年72歳)が2月6日ご逝去されました。花巻市出身で、高校時代は花巻北高野球部のエースとして活躍。国士舘大学にてハンドボールを始め、関東学生リーグでご活躍され、その後教員として岩手県に帰郷し、以来高校ハンドボール部の指導に情熱を傾けられました。特に、昭和60年よりご勤務された盛岡第二高校では、15年連続してインターハイ出場に導き、素晴らしい指導力を発揮されました。高校教員ご退職後は富士大学にて奉職され、女子ハンドボール部を立ち上げからご指導され、現在ではインカレの常連チームとなるまで育て上げました。また、県協会審判部長・東北協会審判部長を務められ、さらに日本ハンドボール協会審判委員会審査指導委員会の委員として、レフェリーの育成にも大きく貢献されました。

今月執り行われた火葬・葬儀には、非常に多くの会葬者が参列し、改めて小友先生の人望の厚さ、交流の広さを感じた次第であります。もっと指導していただきかったという思いが募ります。小友先生のご遺志を少しでも引き継ぎ、岩手県そして花巻市のハンドボール界をさらに盛り上げていけるよう前進して参りたいと思います。謹んでご冥福をお祈りいたします。

L'aile d'Howl (ライル・ドウル)  
2016年2月号  
2016年2月25日発行  
発行:花巻市ハンドボール協会